

# 仲間とともに 研修の成果を深める

JICAが協力を続けてきた途上国には、日本でJICAの研修を受けた帰国研修員が数多く存在する。日本で学んだことや日本の文化を母国に伝え続ける「JICA帰国研修員同窓会」が各国で組織されている。なかでもトルコでは、設立から33年にわたり活発な活動を続けている。

## トルコJICA帰国研修員同窓会

2018年

初代会長  
ルヒ・エシルゲンさん  
旭日双光章受章

トルコJICA  
帰国研修員同窓会  
外務大臣表彰

2019年

2代目会長  
フセイン・ヴェリオールさん  
旭日中綬章受章



「日本における博物館学と文化財の保護モデル」をテーマに、同窓会が開催したセミナー。

JICAのトルコへの協力は1959年、日本での研修員の受け入れから始まった。以来、4000人以上が日本で学び、帰国後に多くの分野で活躍している。同国内で帰国研修員が増えるにつれ、「日本で学んだ研修員同士の交流を深め、日本とのつながりも維持したい」という

## 日本での経験をトルコで生かす

熱心な声が上がった。そこで88年、日本大使館の協力を得てJICA帰国研修員同窓会（以下、同窓会）が組織された。講演会や文化交流イベントの開催などから始まった同窓会の活動は、少しずつ広がりをみせた。「なかでも活動の中心はセミナーです」と話すのは、設立当初から同窓会に関わってきたJICAトルコ事務所員のエミン・オズダマルさんだ。「帰国研修員はさまざまな分野で

活躍していますが、日本で学んだ経験や知識をトルコの人たちに伝えることもまた彼らの果たすべき役割です」。そのために同窓会の活動はあちこちで、とオズダマルさんは力説する。セミナーは首都のアンカラだけでなく、国内20か所以上で開催され、毎回50人から200人ほどが集まる。帰国研修員から「自分が学んできたことを伝えたい」と開催の要請が来ることもあるそうだ。

## 励みになるアクションプラン・コンテスト

こうした活動の積み重ねから生まれたのが、2015年から開催されている「アクションプラン・コンテスト」だ。JICAの研修では最後に、各研修員が帰国後に取り組みたいことを具体的に実現可能なアクションプランとして発表する。コンテストでは、そのプランをどう実現させたかを発表。公益性や工夫、インパクトなどを基準に優れた取り組みが表彰される。帰国研修員の意欲を高めることが目的となっている。「水産業を盛り上げるお祭りを企画したり、女性グループでジャム作りや食品販売を行ったり……。コンテストを通していろいろな取り組みを知ることが活動の参考になりますし、がんばっている仲間の姿に刺激を受ける帰国研修員も多いです」とオズダマルさん。小学校教師のエスマ・フリエ・バルシュさんが発表した防

研修員の声

## Voices

## 2019年 アクションプラン・コンテスト 1位! 「パズルで学ぶ防災」エスマ・フリエ・バルシュさん

トルコ北西部のバルケシル県で小学校の教師を務めるバルシュさんは、2013年に防災教育の研修で神戸などを訪れた。「ゲームや実験などを通して、楽しみながら学び、教師だけでなく消防士やボランティア、被災経験者なども関わる日本の防災教育に感銘を受けました」とバルシュさんは研修での印象を語る。帰国後は、防災教育祭を企画。そこから生まれたのが防災教育パズルだ。地震前、地震中、地震後にすべき行動についてのクイズを出題し、正解すると

パズルのピースがもらえるもので、全問正解すると防災に関連する1枚の絵が完成する。日本の経験に、バルシュさんのアイデアをプラスした取り組みが評価され、1位に輝いた。「受賞はとても驚き、幸せでした。さらに受賞によってパズルがよりよいものになって他の都市の教師や生徒に届けられたことも、とても励みになりました。私をサポートしてくれた学校やJICA、トルコ日本財団、帰国研修員同窓会に感謝します」とバルシュさんは喜びを語った。



防災教育パズルに挑戦するバルシュさんのクラスの児童たち。

防災教育パズル。完成すると、地震で想定される状況が絵で理解できる。

トルコのように災害の多い国では、災害に備えることはとても重要です。そのためにも、災害教育の必要性を多くの人に知ってもらうために、これからも活動を続けま



エスマ・フリエ・バルシュさん



トルコJICA帰国研修員同窓会 会長 (2016年～)  
ハサン・アタルさん  
(アンカラ大学農学部学部長)

3代の同窓会会長がそろった。左から初代会長ルヒ・エシルゲンさん、現会長のハサン・アタルさん、2代目会長のフセイン・ヴェリオールさん。



同窓会とJICAトルコ事務所の間をつなぐオズダマルさん。

同窓会の活動は、農業や水産業、防災、保健、エネルギー、廃棄物、放送などの分野で、日本の労働規律や革新的な技術を取り入れるために、大きな役割を果たしています。歴史的に親日家が多いトルコで、同窓会の活動は日本の文化の理解と両国の友好関係に大きく貢献すると考えています

## オンラインで積極的に活動を継続

20年は新型コロナウイルスの感染が世界中で拡大した。同窓会への影響はどうだったのだろうか。オズダマルさんに聞くと「たしかに大変な状況ですが、オンラインを活用したセミナーを月に1回以上開催し、活動を止めないようにしました」と返ってきた。非常時だからこそつながりをより強めるという決意がうかがえる。

さらにオンラインでの開催で、地理的に遠い人たちや日本在住の研修コースリーダーが参加できるようになった。同窓会はこの機会を新しいチャレンジの時ととらえて、今年には防災分野でイランなど他国の帰国研修員とともに開催するオンラインセミナーを企画するつもりだという。「トルコと同じ課題を抱えている国はほかにもあります。日本で学んだ経験を共有できる帰国研修員が、国を超えてつながることですらなる学びが生まれると思います」。同窓会の今後の活動に注目だ。